



平成 22 年 9 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー  
代 表 者 名 代表取締役社長兼グループ最高経営責任者  
吉田 博昭  
( J A S D A Q ・ コード番号 : 4358 )  
問 い 合 せ 先 常務取締役 経営戦略本部長 上窪 弘晃  
電 話 番 号 03-5434-1586

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 27 日付「特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」にて発表した平成 22 年 7 月期通期業績予想（連結・個別）を修正いたしますので、下記の通りお知らせいたします。

なお、本開示における決算数値等は監査法人による監査前数値であるため、監査後決算数値等とは必ずしも一致致しません。

### 記

#### 1. 平成 22 年 7 月期（平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 7 月 31 日）通期連結業績予想の修正

##### (1) 連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益 又は 純 損 失	1 株当たり当期 純利益又は純損失
前回予想 (A)	26,610	760	420	△330	△11.25
今回修正 (B)	26,400	920	580	△320	△10.98
増減額 (B - A)	△210	160	160	10	—
増減率 (%)	△0.80	21.05	38.10	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21 年 7 月期)	29,483	401	125	△1,856	△66.33

##### (2) 修正理由

売上高につきましては、広告映像事業の TV-CM 部門が好調に推移し、ほぼ当初予想通りに推移しております。

営業利益につきましては、全社的なコスト削減施策が奏功した結果、当初予想より 160 百万円増の 920 百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益における増加要因と同様であり、当初予想より 160 百万円増の 580 百万円となる見込みであります。

当期純損益につきましては、不良債権の積極的な圧縮等を行った結果、当初予想より純損失が 10 百万円減少し、320 百万円の当期純損失となる見込みです。

平成 22 年 7 月期連結業績につきましては、不採算事業やエンタテインメント事業からの撤退の影響を受け、総売上高は前期比で減少の見込みですが、既存事業売上高と比較すると伸長しております。また、上述の通りコスト削減施策が奏功したことと、TV-CM 部門が好

調に推移したことが寄与し、利益は大幅に回復しております。業績が回復していることに伴い、前連結会計年度において120億円あった有利子負債も、当連結会計年度において90億円程度にまで圧縮する見込みであります。今後も収益力強化と有利子負債の圧縮を図ることで、当社グループの最重要経営課題である「財務基盤の強化」を達成してまいります。

## 2. 平成22年7月期（平成21年8月1日～平成22年7月31日）通期個別業績予想の修正

### (1) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益 又は純損失	1株当たり当期 純利益又は純損失
前回予想 (A)	2,870	310	320	△1,330	△45.32
今回修正 (B)	4,900	460	470	△1,170	△39.73
増減額 (B - A)	2,030	150	150	160	—
増減率 (%)	70.73	48.39	46.88	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年7月期)	2,455	281	309	△987	△35.27

### (2) 修正理由

売上高につきましては、平成22年7月1日付で実施した「TYOグループ統合」により、当社の連結子会社8社を当社に吸収合併したことに伴い、当初予想より2,030百万円増の4,900百万円となる見込みです。

営業利益につきましては、売上高における増加要因とコスト削減施策が奏功した結果、当初予想より150百万円増の460百万円となる見込みです。

経常利益につきましては、上述の営業利益における増加要因と同様であり、当初予想より150百万円増の470百万円となる見込みです。

当期純損益につきましては、営業利益における増加要因と同様であり、当初予想より純損失が160百万円減少し、1,170百万円の当期純損失となる見込みです。

以上